

学術情報基盤の整備と図書館の役割

齋藤史郎

図書館の果たしてきた歴史的役割

図書館は人間の知的所産である図書、雑誌などに記録された情報を収集し、利用しやすい形に転換し、需要に応じて利用に供することを目的としている。歴史的に見ると、初めは楔形文字で記された粘土板文書（アッシリア）、象形文字や原アルファベットで記されたパピルス（古代エジプト、ギリシャ）、漢字による紙の文書記録（中国）などを収蔵した王室図書館、神殿図書館として開設された。中世に至って、知的活動が教会より大学へ移行してゆくにつれて、教皇図書館に代わり大学図書館が発展し、近世には公共図書館として国立、公立の図書館が各国に誕生した。我が国ではイギリスに遅れること49年後の1899年に図書館令が施行され、国立国会図書館はじめ約900の大学図書館、約2,000の専門図書館ならびに国立公文書館や各府県の公文書館が設立された。

一方、学術をはじめとする知的活動の発展によって、図書、雑誌の発行数が増加するばかりでなく、収集対象もフィルム、写真、ビデオ、CD-ROM、DVDなどに拡大されてきた。すなわち、現代の図書館は文字・画像情報である書籍と逐次刊行物の収蔵のほか、映像・音楽情報や、電子出版も収集する必要性が生じた。その結果、国内外をコンピューターネットワークで結び、書誌目録データベース、電子化された絵画・写本・写真・地図・楽譜などをインターネットを通して配信する電子図書館構想が生まれた。電子図書館の特徴は、誰でもが、いつでも、どこからでも情報を入手し、利用できることにある。技術革新によって現在のパソコンも、携行容易な大容量の機器に置き換えられる可能性が強く、近い将来に、我々はアリストテレスの個人文庫も遥かに及ばぬ、場所のいらぬ個人図書館を持つようになると思われる。

電子図書館構想の基礎となる情報基盤

電子図書館構想はアメリカ議会図書館など、欧米各国で進展し、我が国でも東京大学情報基盤センターなどで計画が進められている。そのためには、情報学研究を学術研究の基盤の一つと考えて、総合的、学際的、国際的に進めることにより、学術研究を推進する強力な手段を提供し、情報分野における専門的な人材を育成することが必要である。このような目的から、「情報研究の中核的研究機関準備調査委員会報告」（平成11年3月）は「国立情報学研究所（仮称）」を、現在の学術情報センターを母体とした改組・拡充により大学共同利用機関として設置することを提唱している。研究テーマとしては、①理論から実用化への一体的研究のほか、②官民協力によるプロジェクト型研究、③国際的研究、④大学院との連携研究などの推進をあげている。具体的には、①学術情報ネットワークの構築・運用、②学術情報データベースの形成・提供、③学術情報基盤の整備に関するシステムの開発を国家プロジェクトとして実施している。

徳島大学における学術情報システム

本学における学術情報基盤は、総合情報処理センター、附属図書館および情報関連学科によって形成されており、全学共通教育ではコンピューター・リテラシー教育、専門学部では情報教育、情報関連学部および総合情報処理センターでは情報学の研究が行われている。ただ、情報メディアの基盤整備はまだ不十分なので、さらに、①現在の学部・学科の枠を越えた新しい情報学研究組織を構築すること、②図書館所有の書籍、雑誌、古地図などの電子化をはかり、学内外の利用を促進すること、③学生や公開講座受講生の教育用のデジタルコンテンツ制作のために機器の整備と内容の充実をはかること、④大学で創出された論文や技術を公開すること、⑤医療情報、医薬品の副作用情報、生涯学習に関する情報などを地域社会に発信することが必要である。情報開示に際しては知的所有権や工業所有権の保護に留意することは当然である。

各部署の取扱う学術情報の統括

本学の各部署で取扱われている学術情報は多様である。例えば、図書館では、①零次情報（生情報）、②一次情報（零次情報の電子化）、③二次情報（二次情報のデータベース化）④三次情報（データベースの再構築）などの収集・加工・発信と、⑤電子図書館化が重要な役割となる。これらの各部署の学術情報を統括することは大学の重要な業務であるが、そのためには既存の学部・学科の枠を超えた新しい学際的教育組織（例えば情報科学部（科））の新設も一つの選択肢と考えられる。しかし、現実には予算や教官・事務官定員の制約が大きく、現時点では「国立情報学研究所（仮称）」との連携や、各図書館とのネットワークの拡張をはかることが現実的であろう。

徳島大学附属図書館の役割

徳島大学附属図書館は書籍79万冊、雑誌1万5千余种を有し、それぞれマルチメディア・プラザ、マルチメディア・コーナー、オーディオビジュアル・メディア室などを備えて、教職員および学生の利用率が高い。また、古地図の画像データベースやホームページの充実をはかるなど、積極的に活動している。しかし、利用者からはなお開館時間の延長、学生用図書の実、マルチメディアの資料と設備の充実、図書館の増築などが求められている。幸い、本学は平成12年1月に、学術情報センター学術情報ネットワークのノード校に指定されるので、学外とのデータ通信は現在より10倍速くなる。また、本号を読めば、附属図書館の機能の拡大と高度化の状況がご理解いただけると思う。これからも教職員ならびに学生各位のご要望にできるだけ応えたいと考えているが、利用者の方々にも、ご意見と図書館の十分なご活用をお願いしたい。

学術情報機構について貴重なご意見をいただいた、寺田弘前図書館長ならびに大恵俊一郎総合情報処理センター長に感謝する。

（さいとう・しろう 徳島大学長）



見果てぬ夢か

岩田 紀

大学の附属図書館は「知の宝庫」、「知の泉」あるいは「大学の心臓部」など呼ばれてきているが、これは附属図書館が大学において極めて重要な働きを担っていることを示唆していると言えよう。そして附属図書館がその機能を十分発揮するためには、収蔵する書籍や資料といったハードウェアを充実させることが必要であることは言うまでもない。しかしそれだけでは不十分であり、ユーザーが目的を達成するためにハードウェアを適切に使いこなしてこそ、附属図書館がその機能を発揮できるのである。

教官や学生が頻繁に利用してこそ、附属図書館は本来の役割を果たすことができるが、ユーザーである学生の「読書離れ」が言われるようになって久しい。「読書離れ」については様々な原因を指摘することができるが、小さい頃からテレビやビデオを長時間視聴しながら育ってきた「読書離れ」の大学生を「読書好き」に変えることは極めて難しいように見える。

このような状況では、アメリカの大学のように学生が猛烈に勉強せざるを得ない教育システムに変換し、附属図書館が本来の役割を果たすことができるようにする外ないのであるか。

我が国でも「シラバス」なる冊子が学生に配付されるようになったが、これは単なる「授業概要」であって、アメリカの大学のシラバスとは似て非なるものである。シラバスは冊子にして学生全員に配付されるものではなく、個々の授業の受講学生にのみ配付される授業計画であり、一回ごとの授業計画が詳細に記述され、前もって読むべき何冊もの書物や論文が示されているものである。従って、授業が計画通りきちんと行われているか否かが一目瞭然である。また、アメリカの大学では授業中の討論への貢献が成績評価の対象になるため、指定された文献を読まずに授業に出れば、討論に加わることができず、悪い成績を覚悟しなければならない。しかも、成績評価は、討論への貢献以外に、中間や期末の試験、クイズと呼ばれる頻繁に行われる小テスト、期末の論文、研究課題など多様

な成果に関して行われる。そしてこれらに関する計画もシラバスに記載されている。このような厳しいアメリカの大学教育はティーチング・アシスタントやリサーチ・アシスタントを活用することによって可能になる。

しかし我が国の大学では、全ての授業をこのように厳しくするには、アシスタントが著しく不足している。このような現状を放置したまま、「厳しい大学教育」を行うことは大学教員の教育上の負担を著しく増大させ、文部省の目指す「国際水準の大学教育」とは矛盾することになる恐れがあるといえよう。

私の立場でこのように言えば手前味噌になるが、大学の附属図書館によるサービスは私達が大学で学んでいた頃に比べると、格段に向上している。しかしそれにふさわしく学生の利用が増えたかと言えば、その増え方は十分とは言えないであろう。

しかし学生による附属図書館の利用が芳しくないのは、新しいあるいは魅力ある専門書のほとんどが教官の研究室に置かれていることも一因であろう。このような状況では、極論すれば、附属図書館には余り魅力のない書物ばかりが収蔵されていることになるといえよう。これでは、学生の読書意欲が乏しいことを批判することはできないであろう。乏しい資源を効率的に利用するには、ジャーナルだけではなく書籍も附属図書館に集中化することが必要である。しかしそれらを収蔵するにはスペースが著しく不足していることも事実である。

上述のような附属図書館の現状に加えて、アメリカのように「厳しい大学教育」を即座に導入できない状態のまま、学生による図書館の利用を促すには、教官一人ひとりのささやかな努力以外に、果して効果的な方法があるであろうか。附属図書館が学生で一杯になるのは一体いつの日であろうかあるいはそれは見果てぬ夢なのであるか。そんなことを考えていると、昼食後のうたた寝から目が覚めてしまった。

(いわた・おさむ 館長・総合科学部教授)



■ 徳島大学附属図書館の歩み 21世紀に向けて

図書館のサービス

後藤 健次

先日の新聞紙上で、公共図書館の利用が増加し、図書館があたかも貸本屋のような様相を呈しているとの記事があった。しかも無料の。私事ではあるが、私が縁あって関西の某大学の図書館に勤めていた昭和30年前後は、図書館は書籍を保存するのではなく、積極的な利用こそ図書館の使命である、という方向へ動き出した頃ではなかったろうか。本が傷んだり紛失したりしないように、できるだけ貸出をおさえるようなやり方は間違いだ、という考えである。それから数十年、公共図書館、学校図書館を問わず、一路この方向を進んで来て、お客様は神様である式の、いわば不特定多数の利用者のためのサービス合戦となり、その結果は無料貸本屋と皮肉られるような事態になったのであろう。私の図書館のイメージとしては、試験中の満席状態のような利用のされ方ではなく、むしろ少数の利用者の、静かではあるが緊迫した空気の満ちた状態が望ましく思われる。

学校図書館にしても、図書利用の効率が上がるようにと、集中管理ということがよく言われる。あえて言えばこれも不特定多数の利用者への過剰サービスではなかろうか。たしかに文系の学科では特に、教官研究室にはずらりと図書が並べられていて、こんなに必要なのかと疑問に思われることがあるし、これに対しては図書を独占するという非難が浴びせかけられるのが常である。しかしこれは必要であるし、これも集中管理とは違った型の図書保存と考えられる。この教官だけでなく、この部屋に出入りする人のすべてが、並べられた図書に畏敬の念を感じ、学問への情熱を掻き立てられるのである。また教官はある分野の専門家なのであるから、関連図書の秩序だった保存や拡充も大いに期待できると思われる。反時代的な意見で甚だ恐縮ですが、図書館のサービスも一つの曲がり角にきているのではないかと思うわけです。(ごとう・けんじ 第22代館長・徳島大学名誉教授)

附属図書館の活発な利用を期待して

河野 清

徳島大学附属図書館では、平成10年4月にマルチメディア・プラザが開設され世界からの情報を知ることが可能になり、今春3月にはオーディオビジュアル・メディア室を開かれます。ますますのご発展大慶に存じます。CSデジタル放送の発信によって放送大学の授業科目も図書館で視聴できるようになり、徳島大学と放送大学の単位互換の話が進行している中で嬉しく思っています。また、放送大学の学生にも図書館の利用を許可いただいております。

平成8年4月から1年間附属図書館長を勤めた時、常三島地区の学術雑誌の集中化率は蔵本分館の44%に比べて僅か6%であり、集中化を進めることが課題でした。多木教授をはじめとする運営委員の先生方の御尽力と教官各位の御協力により集中化する学術雑誌が決まり、平成9年には20.8%でしたが、平成10年度は23.7%の集中化率となっています。

21世紀は、環境問題をはじめ境界領域の教育と研究、教官相互の共同研究がますます必要になります。各教官の研究室や学科の図書室にどうしても置いておかなければならないものは別にして蔵本分館の平成10年度の集中化率55%に近い数値を目標に一層集中化を進めていただければと思っています。他大学の例にある1ヶ月研究室や学科に置いて回覧したのち、図書館へ渡す方法もあります。

図書館に学術雑誌が配架されていると他学部・他学科・他研究室の教官はもとより大学院生、学部生、学外の人々が利用しやすくなり、図書館が一層活用されることになります。各教官が研究費で購入されている学術雑誌ですが、公益的な立場から集中化を一層進めていただき、附属図書館がより活発に利用され今後ますます充実することを期待しています。

(こうの・きよし 第25代館長)

放送大学徳島学習センター所長)



■ 徳島大学附属図書館の歩み 21世紀に向けて

「アリとキリギリス」

寺田 弘

イソップ物語は、その示唆するものの奥深さ故に多くの教訓と共感とを今でも新鮮に与えてくれる。「北風と太陽」のような陽光のもとらす暖かさに気が和らぐものもあるが、寓話であるが故にその残酷さが許されるものも多い。活動の季節である夏に遊び呆けるキリギリスと、その嘲笑をよそにせっせとエサを蓄えるアリとは、冬の季節を迎えて立場を逆転させてしまうという「アリとキリギリス」は、筆者のようなある年代以上の層にとっては、過ぎ去った「蓄積の時代」を思い、やがて来る冬の時代を暗示するものとして胸中は複雑である。

来るべき21世紀に向けて図書館はどうあるべきかとは非常に難しい課題である。一つの組織が生き生きと活動するには10年が一区切りであるとされる場合が多いが、これは如何に優れた組織でも10年も経ってしまうと活力が衰えるので、絶えざる努力が必要であるからであろう。いくら新しくても硬化現象が見られる

組織は若くはないことはいうまでもないが、50才を迎える附属図書館の場合はどうであろうか。組織の硬化現象をどのように克服していかかが21世紀へ向けての第一の課題なのではないか。

「先じるものは制す」とは情報の重要性を示す言葉であるが、図書館にとって情報を単に学術情報という枠内でのみ考えるのであるならば、急激な変化が予想される21世紀には対処できない。どのようにして先じるのかということを考える必要がある。「十分に終わりを考えよ。まず最初に終わりを考えよ」というのはレオナルド・ダ・ヴィンチの人生観であるが、もし終わり良ければ全て良しという考えで改革を行うのであるならば、その意図するところは何やらアリに似て悲しい。英知とそれを実行に移す英断とが必要である。

(てらだ・ひろし 第26代館長・薬学部教授)



◀旧常三島分館(昭27.3)



蔵本分館玄関ホール(昭38.2)▶

■徳島大学附属図書館の歩み 21世紀に向けて

蔵本分館の更なる発展を願って

森田 雄介

図書館は生きているシステムであり、必然的に時代と共に変貌してゆくシステムである。「今、我々は“ハイブリッド型図書館”の時代を迎えつつあるといってもよいだろう。すなわち、従来型の書籍・文書資料を中心に学術情報を蓄積する“従来型図書館”の存在と、電子化された学術情報の増大に依拠するいわゆる“電子図書館”の急速な展開、そして両者の併存・補完関係の定着である…」と、菊池光造氏（京大図書館長）は述べている。このことは、蔵本分館の昨今の変貌ぶりからもうなづける。

今後の分館の課題は、ハイブリッド型機能の構築と充実をはかりながら、いかに円滑かつ効率的に図書館全体の機能を展開するかにある。具体的課題では、私の分館長時代のアンケート調査で、要望の多かった24時間開館の件や、最近の外国雑誌の値上がりから、雑誌購入の見直しや購入点数の削減をせねばならない状況があり、これは今日の大学改革の中で教育研究の高度化という要請と抵触する問題である。また、「徳島大学の現状と課題、平成4年12月」

によれば、本学の蔵書冊数、図書受入冊数、大学総経費に占める資料費の割合は、国立大学の平均をかなり下回っていることが報告されている。その後の報告（徳島大学附属図書館自己点検・評価委員会報告書、平成8年3月）でも、本学の図書受入冊数は同規模大学の71%に過ぎず、新しい図書の受入が他大学に比べかなり劣っていること、大学総経費に占める資料費の割合が全国水準に達していないことなどが指摘されている。

以上の課題はすべて予算絡みであり、最大の問題点は大学図書館が課題実現のための贅沢な予算を持っていないところにある。とくに、本学の図書館予算を同規模のそれと比較してみると、かなり少ないことがわかる。図書館に対する予算面での暖かい十分な配慮が必要である。

図書館の更なる発展のために、本学全構成員はもっと図書館に強い関心を向けるべきである。

（もりた・ゆうすけ

第22代分館長・医学部教授）



◀指定図書室(昭43.9)

本館増築(昭60.3)▶



■徳島大学附属図書館の歩み 21世紀に向けて

五十周年に寄せて

杉尾 勝 茂

徳島大学創立五十周年おめでとうございます。大学における学部学科等の組織改革のなかで、図書館もまた、教育・研究の支援体制の整備にその歴史を刻み、発展した今日の図書館をみると、図書館員の皆さんの努力に心からお祝いを申し上げます。

私は、平成3年4月から5年3月まで2年間徳島大学附属図書館で仕事をさせて頂きました。50分の2年という在職でしたが、私の図書館歴、あるいは私の人生にとっても、と言いなおしてもいいほどの、かけがえのない所であり、2年でした。

平成3年4月、図書館の機構改革がこれまでの事務長制から部課制となり、初めての部長として、不安をおぼえるなか、赴任したことを覚えています。定員が増えるでもなく、むしろ実働定員の減となるなかでの部課制の発足は、おだやかならぬ対応が生まれて当然のことでしょう。館員の皆さんと両課長に、また事務局の支援に恵まれながら、密度のある仕事をさせて頂いたことを感謝しているところです。

わたくし事では、両親が幼い頃に北海道開拓団として四国（愛媛県との県境）を離れ、一度も帰ることがなかった地に、私がひと時でも生きた所として、かけがえのない年を得ました。

赴任中に原資料の阿波国伊能図を広げて見たものですが、今ではインターネットで拝見でき、遠く離れていても図書館ホームページから検索ができ、様子をうかがい知ることができる世界となり、原報と利用との距離を消失しています。

21世紀の図書館ネットワークの高度化は、学術情報のデジタル化と情報サービスの多様化が、通信技術の進歩と相まって、加速的に5年10年の単位で進展を遂げるでしょう。

21世紀に向けた、特性のある新しい理念をもつ図書館をどう創出するかが重要と思えます。益々の発展を祈念申し上げます。

（すぎお・かつげ 初代事務部長・平成国際大学附属図書館）

徳島大学附属図書館と私

河 田 政 雄

図書館は私が勤めはじめた昭和35年、全国の国立大学の図書館がそうであったように新制大学の附属図書館として、あるべき図書館システムを模索し始めていた頃であった。大学のキャンパスが二地区に分かれていたので、図書館は常三島地区に附属図書館（本館）と常三島分館（学芸学部図書分館、工学部図書分館）、蔵本地区に蔵本分館（医学部図書分館）がそれぞれあった。図書館の建物は、木造の旧学校施設や旧兵舎の一部を転用するものであった。蔵書はいうまでもなく貧弱で、当時蔵本分館にいた私は、アメリカのチャイナメディカルボードの援助を得てアメリカの医学雑誌の収集整備に当たったものであって懐かしく記憶している。その後、昭和37、38年に鉄筋コンクリート造の蔵本分館が現在地に新築され、そして昭和46年に常三島地区にコンクリート造の本館が現在地に新築されて、ここに名実ともに図書館の施設が整備された。それと並行して、図書館の組織機構や運営の現行に向けた整備が図られ、いわゆる図書館の近代化が進捗した。

昭和50年代に入ると、大学附属図書館はコンピュータリゼーションがはじまり、図書館の業務電算化、学術情報ネットワークへの参加、そして電子図書館化の現在へと至っている。昭和56年、私は他大学に転出し図書館を離れたので、電算化以後の図書館の歩みは外から見守ったことになる。大学の教育・学習・研究活動の支援機関としてその役割・機能の充実強化を着実に推進しているのが今日の図書館の姿である。

21世紀は、インターネットに代表される情報・通信が中心になって進展する社会であると言われる。大学はどのように変革するのか。そして大学図書館はどのような役割・機能を担いようのか、また果たしうのか。新たな挑戦ははじまったばかりである。

（かわた・せいゆう 元受入係長・四国大学講師）



平成11年度附属図書館事業計画について

山 本 久

附属図書館では、平成11年度第1回附属図書館運営委員会（6月7日開催）で承認された今年度の事業計画に基づき、図書館の整備・改善事業を進めています。これまでの主な事業の取り組み、今後の取り組みについては、別表「附属図書館整備・改善の歩み」に掲げています。

ここでは、平成11年3月3日開催の附属図書館運営委員会において、当面の附属図書館将来計画の事項として策定された7項目について概略ご説明致します。

1. 附属図書館本館の新営

昭和46年に建築した本館は、蔵書数と利用者の増加に伴い、狭隘化が進んでいる。また、老朽化も顕著で新図書館の建築が望まれる。

新営構想の主な骨子として、次のことをあげている。

- ① 2010年までの完成を目標として本館の新営計画を進める。
- ② 建築場所はキャンパスの中央で5,000㎡以上の敷地が確保されることが望ましい。
- ③ 建築面積は9,000㎡以上とし、独立建築物とすることが望ましい。
- ④ 学術雑誌等の集中化と共同利用に対応できる十分なスペース、知的・文化的センターにふさわしい落ち着いた雰囲気閲覧室、ゆとりのある座席、教職員、学生の研究、学習及び憩いの場となるように配慮する。
- ⑤ 電子図書館的機能の強化・充実に対応できるようにインテリジェント化された施設基盤整備を整える。

2. 電子図書館的サービスの拡充

現在、紙形態で流通している学術情報資料のうち、ますます多くの部分が今後、学内LAN、インターネット等の電子的な媒体を通して流通するようになり、これらの電子情報を利用者に迅速・的確に提供することが重要な機能の一つになる。

今後取り組むべきメニューとして、次のことをあげている。

- ① OPAC 充実のための所蔵資料の遡及入力。
- ② 学会、学術出版社、学術情報センター等が提供するオンラインジャーナルの提供。
- ③ 貴重資料（阿波国絵図、伊能図、蜂須賀家文書等）の画像・全文データベース化。
- ④ 学内で生産される学術資料（科研費報告書、紀要、学位論文等）の全文データベース化。
- ⑤ ネットワークで送受信できるドキュメントデリバリーシステムの構築。

3. 自動入退館システム、夜間入室システムの導入・24時間開館サービスの実現。

本学の開館時間については、利用状況を踏まえて決定しているが、学内の利用者及び一般市民等の学外者への更なるサービスの充実を図るためにも、見直す時期のようである。

また研究者が、開館時間外に緊急の利用を必要とする場合いつでも利用可能とするため、自動入退館システム、夜間入室システムを導入し、24時間利用可能な図書館の実現を図るべきである。

当面、蔵本分館に夜間入室システムを早急に導入し、24時間利用可能な図書館の実現が望ま

れる。

4. 図書館を利用した文献情報利用教育の支援

本学においては、これまで、いくつかの学部、学科の学生を対象として、文献検索指導を含む図書館利用ガイダンスを実施してきたが部分的な試みにとどまっている。

今後はその内容を充実し、範囲をさらに拡大して、総合情報処理センターを始め各教育研究分野と連携・協力して、情報リテラシー教育を支援していくことが望まれる。

5. 市民等による図書館ボランティアの導入と図書館サービスへの参画

本学では昭和 63 年度から貸出を含めた学外者への図書館利用を制度化し、特に大学開放実践センターの受講生、放送大学学生には図書館利用証を交付して、大学の生涯学習活動と図書館サービスとの連携を図っている。

今後は一方的に図書館サービスを市民等に提供するのではなく、生涯学習の一環として大学図書館を知ってもらうことも考え、市民等による図書館ボランティアを導入して、図書館のサービスと運営の特定分野に図書館ボランティアの参画を求めるという双方向的な連携の可能性を追求する。

当面参画を求めることが適当な分野として、郷土資料関係の調査、整理、所蔵資料の公開展示会の案内、運営等が考えられる。

6. 学術雑誌の安定的購入と図書館集中配置による共同利用の推進

大学附属図書館にとっては、図書・雑誌等の一次資料が最も重要な情報資源であり、これらの一次資料の整備、充実が図書館サービスの最大前提である。しかし、近年学術出版物の増加と価格の高騰で整備・充実することが困難となっている。相当数の学術雑誌の購入中止を余儀なくされている。平成 11 年度の購入雑誌種類数は 2,623 種で、平成 10 年度に比較して 64 種

の減である。学術雑誌は、研究上不可欠な情報源であり、その欠落は将来にわたって大きな禍根を残すことが憂慮される。このため、購入雑誌の選定と経費負担のあり方について見直しを行い、安定的な購入を可能とするための方策を検討する必要がある。

また、教育・研究に必要な図書、雑誌等を経費節約等のためにも可能な限り図書館に集中化し、共同利用を積極的に推進する。

7. 図書館事務組織の再編・整備

図書館事務の合理化、電子図書館的機能の強化等のため事務組織の見直しが必要である。

①電子情報係の設置

現在、電子図書館的機能に係る企画、システム管理、サービス業務については、情報サービス課学術情報係が、参考調査、図書館間相互貸借、業務電算化システムに係る管理業務と併せて担当している。今後、電子図書館的機能の大幅な充実を図るためには、電子図書館に関連する業務とシステム管理業務を一元的に担当する「電子情報係」の設置が必要である。これに合わせて電子情報サービスを担当する要員の確保、育成を図る必要がある。

②蔵本分館への専門員配置

蔵本分館は、現在 3 係が情報管理課と情報サービス課へ分属しているために、分館の事務組織の統括、本館及び蔵本地区の部局との連絡調整等に関して支障をきたす場合が少なくない。この任に当たるために、図書館専門員を蔵本分館に配置して対応することが望ましい。将来は、課長を配して分館の業務をより充実させることも検討する必要がある。

(やまもと・ひさし 事務部長)



附属図書館整備・改善の歩み

区 分	実 施 経 過	
	平成2年度から平成6年度	平成7年度～平成9年度
組織・機構	事務組織改組 (平2) 部課制設置 (平3) 附属図書館事務組織改組 (平4) 館報編集委員会 (平6) 附属図書館図書選定委員会 (平6)	蔵本分館図書選定委員会 (平8) 附属図書館将来計画検討委員会の設置 (平9)
図 総合	土曜開館実施 (平4) 英文利用案内作成 (平5) MLニュースを速報版に変更 (平6) 学外者利用案内刊行 (平6) 本館夜間開館時間延長 (平6)	自己点検評価報告書刊行 (平7) 蔵本分館試験期夜間開館時間延長 (平7) Library Announcement (すだち速報版) 創刊 (平9) 館報の刷新 (平9) 本館書庫入庫制限の変更 (平9) 特別貸出 (教室貸出) 方式の変更 (平9) 図書館学外者利用申請の変更 (平9) 図書館利用案内の刷新 (平9)
書 学習	共通教育選書計画策定 (平4)	学生用図書購入計画の見直し (平9)
館 研究	情報検索サービス開始:JOIS (本館:平2) 大型コレクション整備 (平3) ILL システムによるサービス開始 (平4) ファクシミリ文献複写サービス開始 (平4) 大型コレクション整備 (平5) ILL システムによる BLDSC サービス開始 (平6)	自然科学系特別図書整備 (平7) 大型コレクション整備 (平7) 自然科学系特別図書整備 (平9)
機 保存		
能 電子	図書館専用電算機導入 (平2) 学術情報センター接続 (平2) OPAC 運用開始 (平3) CD-ROM による情報検索サービス開始 (平5) 情報検索ガイダンス (分館:平3～) CD-ROM ネットワークサービス開始 (平6) 図書館専用電算機の更新 (平6) UNIX 版 OPAC (TELNET) 運用開始 (平6)	UNIX 版 CD-ROM サーバシステム (ERL) の導入 (平7) 電子メールによる ILL 申込受付 (平7) 電子掲示板設置 (平7) UNIX 版図書館トータルシステム導入 (平8) WWW ブラウザによる OPAC 運用開始 (平8) 古絵図の画像データベース化 (学内特別教育研究費) (平9) 図書館ホームページ開設 (平9) CA サーバの導入 (平9) ERL (Current Contents, MEDLINE) 検索講習会 (平9)
事 業	泉山文庫目録 改訂版 (本館:平2) 学術情報に関する講演会 (平3～) 学術情報センター地域講習会開催:目録システム (平4～5) 学術情報センター地域講習会開催:NACSIS-IR (平5) 国立大学附属図書館協議会総会開催 (平5) 学術情報センター地域講習会開催:NACSIS-IR (平6)	
施設・設備	BDS 設置 (本館:平4) 情報検索コーナー設置 (平5) 留学生資料コーナー設置 (平5) 身障者用設備の整備 (平6) 蔵本分館増改築 (平6) 蔵本分館電動集密書架設置 (平6)	サイン整備 (平7) 参考書架増設 (平7) BDS 更新 (分館:平7) 学術雑誌閲覧室設置 (平8) プリペイドカード方式複写機導入 (本・分館:平8) サービスカウンターの更新 (本館:平9) 身障者用閲覧機増設 (本館:平9) 図書自動貸出・返却装置導入 (平9) 閲覧室椅子の更新 (平9/10)
要員研修	目録システム担当要員養成研修 (平1～5) 13名 大学図書館職員長期研修受講 (平2～6) 3名 総合目録データベース実務研修 (平3～5) 3名 情報検索システム担当職員養成研修 (平5～6) 23名	図書館等職員著作権実務講習会 (平7) 8名 大学図書館短期研修受講 (平9) 1名 図書館等職員著作権実務講習会 (平9) 1名
規定・その他	資料不用決定取扱基準 (平1決定) 図書選定委員会規約 (平6)	図書選定委員会規約 (平8) 貴重資料指定基準・取扱要領 (平9) 徳島大学附属図書館広報委員会規約 (平9) 徳島大学附属図書館館報発行要項 (平9)

実 施 経 過		
平成 10 年度	平成 11 年度	今 後 の 課 題
		事務組織の改編 研究開発室の設置
学報掲載の統計情報リメイク 図書館将来計画の策定 夜間開館時間の通年延長（分館）	ボランティアの導入 図書館新営構想の策定 日曜開館（学生試験期間中）（本館）	情報リテラシー教育の支援 日曜開館の推進 24時間開館（分館）
『これならできる情報リテラシー』に参考資料Ⅱ掲載	参考図書コーナーの設置	学生用図書の充実
	学術雑誌の集中化（継続）	学術雑誌共同利用の推進 大型コレクションの整備 自然科学系特別図書の整備 電子媒体二次資料の充実
		収納スペースの確保 貴重資料の補修
伊能図・古絵図の高精細画像データベース化（科学研究費） 資料 ID 変換ソフト開発 CA on CD, CI on CD ネットワークサービス開始 無料電子ジャーナルサービス開始 CA, 医中誌検索講習会 人文社会系情報検索講習会 視聴覚ライブラリーシステム導入	伊能図・古絵図の高精細画像データベース化（科学研究費） 貴重資料高精細デジタルアーカイブ（WWW）公開 ホームページの充実 ネットワーク情報サービスの充実	貴重資料の電子化 電子メディア利用の拡大 OPAC データの整備 新 CAT / ILL への対応 図書館業務システムの更新 医学中央雑誌のネットワークサービス
学術情報センター地域講習会；ILL システム資料 ID 変換及びラベル添付作業	徳島県立博物館企画展特別協力 新 IR 説明会 中国・四国地区電子的資料購入のためのコンソーシアム形成 W / G 参加 図書館職員研修会開催	資料展示会の開催 目録データ週及入力
閲覧室椅子の更新 マルチメディア・プラザの設置（本館） 特別資料閲覧室・展示室設置 雑誌閲覧室の整備 カラーコピー機導入（分館）	単体 CD-ROM 検索システム設置（本館） 貴重資料高精細デジタルアーカイブ閲覧システム オーディオビジュアル・メディア室の設置 グループ研究室の設置 マルチメディア・コーナーの設置（分館） 閲覧室机・椅子等の更新 OCS 端末機の増設	情報コンセントの設置 新図書館の建築計画 視聴覚機器の整備 自動入退館システムの設置 夜間入室システムの設置
大学附属図書館短期研修受講 1 名 図書館等職員著作権実務講習会 1 名		研修会等の受講推進
徳島大学附属図書館インターネットによる広報実施要領 徳島大学附属図書館報発行要領	徳島大学附属図書館運営委員会規則一部改正 徳島大学附属図書館蔵本分館運営委員会規則一部改正 貴重資料高精細デジタルアーカイブ取扱要領 徳島大学附属図書館ボランティア受入実施要領 徳島大学附属図書館オーディオビジュアル・メディア室利用要領 徳島大学附属図書館グループ研究室利用要領	

超高精細デジタルアーカイブシステムの構築

—平成10年度文部省科学研究費助成—

平井松午

絵図や文書類のデジタル化は、史料保存の点で優れているのみならず、画像処理による新たな分析手法の展開も期待されている。「すだち」No.58で、学内経費によって作成された附属図書館所蔵絵図のデジタル画像を紹介したが、こうした取り組みが認められてか、平成10年度には文部省科学研究費補助金研究成果促進費（データベース）を受けて、新たに21点の絵図についての画像データを作成することができた。

今回の科研費でデジタル化された絵図のうち10点は伊能図である。「すだち」No.56でも紹介したように、これらは本学附属図書館が全国に誇るコレクションである。伊能図のうち、針穴が確認できる「沿海地図」（東日本、3鋪）や「大日本沿海図稿」（西日本、4鋪）は、地図1枚の大きさが縦横150cm×200cm程度の中型地図ではあるが、絵図に記載されている地名の中には、大きさが1～2mmと米粒よりも小さな文字で書かれているものがある。

達筆な楷書で筆書きされているこれらの文字には驚かされるが、今回の画像データ化にあたっては、この点がもっともやっかいな問題となった。すなわち、研究用にも耐え得る画像データの場合、絵図（地図）中に書き込まれている文字・記号などがはっきりと読みとれなければならない。そこで、今回の伊能図のデジタル化にあたっては、1枚が縦横150cm×200cm程度の大きさの地図を図上で12分割して作業を進めることとした。具体的手順は次の通りである。

1) 12分割のカットごとに、8×10インチの最大サイズのカラーポジフィルムで撮影する。

2) カラーポジフィルム1枚(1/12)ごとに、容量約500MBの画像データを作成する。
3) さらに、12分割されたデジタルデータを画像処理し、地図1枚分に相当する統合データ（全体画像）を編集する。

500MBはほぼ光磁気ディスク1枚分にあたり、地図1枚の全体画像は6GB(500MB×12枚)もの大きさになってしまう。しかし、現在のところハードディスク以外に記憶媒体がないため、統合データの容量は2GBに調整している。

もちろん、こうした一連の作業は素人の手には負えず専門業者に委託したが、今のところ、こうした高度な技術を駆使できる業者は数少ない。幸い、完成した統合データは、撮影や画像処理の際に生じやすい歪みやズレのない、極めて鮮明な超高精細デジタル画像である。こうした画像データが完成したこともあり、本年4月以降、附属図書館では伊能図等の貴重資料については一部を閲覧制限している。

ただし、伊能図などデジタル化ができた27点の絵図については附属図書館ホームページ(<http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/top.html>)に「貴重資料高精細デジタルアーカイブ(WWW)」を立ち上げ、全体画像や部分拡大画像(圧縮データ)、書誌的データ、ならびに絵図解説の提供を行っている。

また、本学附属図書館が所蔵する伊能図については、本年9月10日～10月11日まで徳島県立博物館で開催される企画展「伊能忠敬が描いた日本」で、すべて展示することになっている。同展では伊能図ほかの超高精細デジタル画像についても展示・公開する。ぜひ多くの方々に見ていただきたい。

(ひらい・しょうご 総合科学部教授)

貴重資料高精細デジタルアーカイブ (WWW)

学術情報係

平成11年4月、貴重資料高精細デジタルアーカイブ (WWW) が図書館ホームページに掲載された。

平成9年度 (学内特別教育研究費) 平成10年度 (科学研究費) により伊能図、古絵図等の27点の超高精細デジタル画像データが作成された。そのすべてがインターネットで閲覧できるようになった。

WWW版作成にあたって、次の点について工夫をした

- ①サムネイルを採用した一覧をつくり探しやすいにした
- ②圧縮した全体図と部分拡大図22点を載せた
- ③詳細一覧に書誌情報に加えて解説と参考文献を載せた

データ項目

- ・絵図のサイズ
- ・最小文字のサイズ
- ・体裁
- ・料紙の種類
- ・形態
- ・表紙・箱情報
- ・紙質
- ・保存状態

(URL: <http://www.lib.tokushima-u.ac.jp>)



トップ画面

整理番号	サムネイル	資料名	部分拡大図
全6-1		沿海地図 上	富士山 溪山 鎌倉氏沼
全6-2		沿海地図 中	気仙沼 八里田山
全6-3		沿海地図 下	西館 湊家碑
全9		富坂実測日本地図 (山陰・山陽・南海・西海)	塩埕 阿波
全11		大日本沿海図録 (五畿・東海)	奈良郡山

サムネイル一覧

所蔵先	徳島大学附属図書館
整理番号	全13
分類	伊能図
タイトル (外題)	大日本沿海図稿 南海 参 (題簽)
タイトル (内題)	ナシ
作製年 (和暦)	不詳
作製年 (西暦)	不詳
作製者名	伊能忠敬 (勘解由)
作製者情報	ナシ
料紙種類	鳥の子紙系
数量・形態	1 鋪・折り畳み
サイズ (縦×横)	1140 mm × 1515 mm
技法	手書き・彩色
分圖 (縮尺)	216,000分の1
表装・箱情報	桐箱入り, 題簽
印影	ナシ
保存状態	良好, 酸化
備考	絵図余白に凡例 (18種類) あり。

詳細一覧



部分拡大図

単体 CD-ROM の利用をより便利に！

学術情報係

本館2階マルチメディア・プラザに単体 CD-ROM 専用のパソコンを設置した CD タワーを接続し、CD-ROM 7枚は常時配備しておけるようになった。利用できるタイトルは下記のとおりである。「すぐ使えるもの」以外を使いたい場合はレファレンスカウンターで申込んで CD-ROM をさしかえてもらう必要がある。

☆すぐ使えるもの

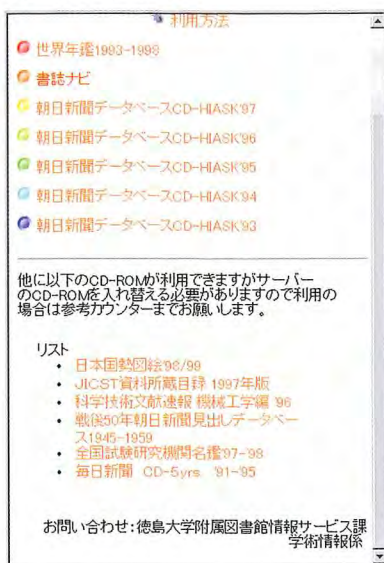
- ・世界年鑑 1993 - 1998
- ・CD-HIASK 1993 ~ 1997
- ・書誌ナビ

☆レファレンスカウンターへ申込むもの

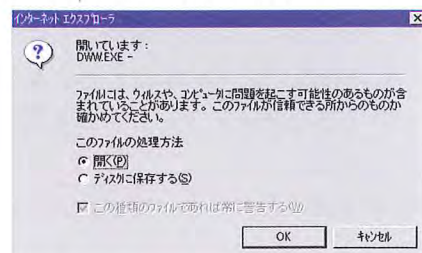
- ・日本国勢図絵 '98/'99
- ・JICST 資料所蔵目録 1997 年版
- ・科学技術文献速報 機械工学編 '96
- ・戦後 50 年朝日新聞見出しデータベース 1945-1995
- ・全国試験研究機関名鑑 '97-'98
- ・毎日新聞 CD-5yrs '91-'95

検索方法 1

- ① CD-ROM 検索画面から検索したいタイトルをクリックする



- ② インターネットエクスプローラーのウィンドウが開き、このファイルの処理方法を聞いてくるので、「開く」にチェックを入れて OK ボタンをクリックする



- ③ セキュリティ警告のウィンドウが開き「“プログラム名”をインストールして実行しますか?」ときかれるので、「はい」のボタンをクリックする



- ④ 検索プログラムが起動する
⑤ 検索終了後、プログラムウィンドウの右上の「[X]」をクリックして検索プログラムを終了する

検索方法 2

初期画面の左のアイコンから利用したいタイトルのアイコンをクリックする。



図書 I D ラベル貼付作業

吉田 敬治

附属図書館では、平成9年度にユーザー自身が機械のメッセージに従って簡単に貸出手続きができる自動貸出（PSC、バーコード対応）・返却装置を本・分館に導入し、平成10年4月からバーコードラベルを貼付している図書を対象に試行的に運用している。ただし、導入効果を発揮するためには平成8年度までに登録した図書IDラベルをOCRからバーコードラベルに変換する大作業が必要であるが、この度図書館システムのメーカーによる図書ID変換ソフトを開発した。これは蔵書点検用ハンディターミナルを使用して、配架している図書のOCRを読み取り、登録データをチェックして、バーコードラベルをプリントできるようにしたもので、これにより配架図書の貼付作業が効率的に行えるようになった。昨年秋からは日常業務の合間に図書館職員による貼付作業が進められてきたが、平成11年の学生春季休業期間を利用して学生アルバイトを雇用して、本・分館の開架している全図書について貼付作業が行われた。

- 1 作業日時 平成11年2月25日～
3月25日 平日20日間
 - 2 場所 本館開架閲覧室(2、3F)
本館指定図書閲覧室
蔵本分館図書閲覧室(2F)
 - 3 貼付冊数 約10万冊
 - 4 貼付作業内容
1. 図書館のハンディターミナルで事前にOCRラベルの数字を読み込み、図書館のプリンターからバーコードラベルを出力させ、各棚の書架に配置する。
 2. 照合作業として、割当ての棚ごとに書架の図書のバーコードラベルとOCRラベルの番号とを照合して、所定の位置に貼付し、点検する。その後、図書を所定の棚に配架する。
(よしだ・けいじ 情報サービス係長)

蔵本分館にマルチメディア・コーナー オープン

近藤 英子

情報化の波に乗り1999年2月23日分館情報調査係の東側約55㎡(前情報検索コーナー及び留学生コーナー)に、マルチメディア・コーナーを開設しました。本館と同様、管理・運営を円滑にするため、セルフメンテナンス、自動電源制御により、開館時間中はいつでも利用することができ、メニュー方式によるパソコン11台とプリンター4台を新たに設置して計15台のパソコンでサービスを開始しました。「図書館利用証」の番号を入力するだけで、全世界のあらゆる情報を目にする事が出来ます。研究や授業の合間をぬって、文献情報検索やインターネットによる情報の収集などに利用されています。分館では、文献情報検索を中心に、また論文作成を希望される利用者には、ワープロや表計算ができるソフトを用意しています。このコーナーでは、自然科学系を中心にしたオンライン検索

CA(Cheical Abstracts) on CD(1997～)、
CI(Collective Index) on CD(1987～1996),
Current Contents: 自然系5種
MEDLINE
Biological Abstracts(1985～)、
医学中央雑誌(1987～)
Journal of Citation Reports(1994, 1995～)
その他辞書・辞典・図譜等を利用することができます。また、図書館のホームページからインターネット・サーフィンや各種の情報(OPAC 徳島大学蔵書検索、電子ジャーナル等)を見ることが出来ます。

定期的に利用講習会を開催し、情報検索等のより効果的なサービスを提供します。

(こんどう・ひでこ 分館情報調査係長)



ちょうりゅう

科学研究費による超高精細 デジタル画像の作成

平成10年度科学研究費研究成果公開促進費で伊能図、村絵図等21点の高精細デジタル画像が作成された。8×10インチのカラーポジフィルムにより9ないし12分割で撮影が行われ、高精度のスキナーでスキャンし、1枚につき約500MBのデータに加工された。平成9年度学内特別教育研究費による作成分とあわせて、27点の画像化ができた。今年度も科学研究費が措置されたので画像化が継続してすすめられている。

画像化することにより希望するどの部分でも好きな大きさに拡大・縮小して見ることができる。画像の回転、色調の調整などが可能である。その上、肉眼ではみえない紙漉の筋・針穴・極ちいさなシミなどをくっきりと見ることができる。

不正使用防止措置を施した統合画像を作成して公開する予定である。

(本文12p.の記事を参照)

貴重資料高精細 デジタルアーカイブ (WWW) 公開

平成9,10年度に作成された伊能図、国絵図、郡絵図、村絵図、城下町図27点のWWW版を本年4月に図書館ホームページから公開した。

圧縮した全体図では文字情報は期待できないが、部分拡大図をのせたことによりその一端を味わうことができる。

URL : <http://www.lib.tokushima-u.ac.jp>

(本文13p.の記事を参照)

貴重資料高精細デジタル アーカイブ閲覧システム

このほど、3階貴重資料閲覧室に画像閲覧システムを設置した。1Gのメモリーを持ち、容量の大きい貴重資料高精細デジタルアーカイブを閲覧するための設備である。不正使用防止措置を施した統合画像を作成して来館の研究者に提供する予定である。

「附属図書館の情報検索サービス」

コンピュータリテラシー教育の教科書として本学総合科学部 大橋守・伊藤利明・中山慎一共著『これならできる情報リテラシー』(学術図書出版社)が1999年4月に発行された。その参考資料Ⅱとして図書館の手になる「附属図書館の情報検索サービス」が掲載された。これは情報サービス課長・学術情報係長により本学のOPAC、ホームページの活用、検索エンジンの活用について編集されたものである。

雑誌閲覧室に OPAC 用パソコン設置

雑誌閲覧室(新館2階)にOPAC用パソコンを1台設置し、利用者の便宜を図った。机は立ったまま使えるように1mの高さにした。マルチメディア・プラザと同様自動電源 on/off, selfmaintenance



system を採用した。図書館利用証の番号を入力して利用することができる。

Academic Press 電子ジャーナル (IDEAL) トライアル

本年5月から6月までの2ヶ月間、国立大学図書館協議会図書館電子化システム特別委員会コンソーシアムに関するワーキング・グループの主催により、国立大学図書館協議会電子ジャーナル IDEAL 無料トライアルが同協議会の加盟大学等を対象として実験的に行われた。Academic Press 社提携の174誌のフルテキストにアクセスが可能であった。

図書館業務システムバージョンアップ

平成12年度の図書館業務システムバージョンアップに向けて各業務について本格的に検討を始めた。8月で各業務の検討を終了し、仕様書(案)の作成に入る。8月にはメーカーの新システムのデモンストレーションを行った。

バーコードラベル貼付作業 (開架室) 第1次が終了

学生春季休業期間を利用して、本・分館の開架図書約10万冊にバーコードラベルを貼付する作業が終了した。これにより、PSC(図書自動貸出返却装置)が本格稼働している。

単体 CD-ROM 検索システム設置

本館マルチメディア・プラザに単体 CD-ROM 検索専用のパソコンを設置した。CD-ROM タワーをつなぎ、7点の CD-ROM についてはいつでもパソコンの前に座れば使



えるようになった。そのほかの CD-ROM については、レファレンス・カウンターへ申し込んで CD-ROM を入れ替えてもらう。より使いやすくするために、収容能力の増加が望まれる。

ホームページ改訂

平成9年度に立ち上げた図書館ホームページは有効に利用されているが、トップページの手直し、貴重資料高精細デジタルアーカイブ(WWW)のリンク、電子図書館、購読雑誌目録の追加などが行われた。

オーディオビジュアル・ メディア室新設

附属図書館(本館)3階にオーディオビジュアル・メディア室が3月29日からオープンした。快適なルーム環境で、放送大学のデジタルCS(衛星通信)放送、BS(衛星)放送をはじめ、デジタル視聴覚メディアを8台のブースで視聴できるシステムである。各ブースは全てヘッドホン視聴となっている。また、蔵本分館もCS、BS放送受信設備が整っている。

グループ研究室

オーディオビジュアル・メディア室設置に伴い、小視聴覚室をグループ研究室に模様替えした。利用申込みは情報サービス係へ。

自習室をリメイク

附属図書館(本館)3階の自習室をリメイクした。静かに研究することを望む利用者からは利用しやすくなったと好評である。

分館マルチメディア・コーナー

平成11年4月蔵本分館マルチメディア・コーナーをオープンした。インターネットの使えるパソコン、単体 CD-ROM 用パソコンを加えて16台用意した。(本文 p.15 参照)



分館カラーコピーサービスの積極的な利用を

研究者の要望を受けて、平成10年5月より開始したカラーコピーサービスは、今年度になってから当初予定したほどの利用の伸びを示していない。積極的な利用を切にお願いしたい。

学術情報に関する講演会開催

平成10年12月4日(金)、金沢大学理学部の田子精男教授を迎え「気の利いた情報システム」と題する学術講演会を開催した。

田子教授は、従前メーカーの立場で図書館情報システムや可視化システムなどの開発にたずさわられ、現在は大学附属図書館でエンドユーザーの立場でシミュレーション向け問題解決支援システムなどの研究開発を手がけられている。今回は、講師のこれまでの経験をもとに、情報の収集と発信などに関する気のきいた情報システムのテクノロジーを考察され、多様化した社会のニーズを考えたシステム作りの参考になればと述べられ、図書館員、大学附属図書館関係者の理解を深める上で非常に有意義であった。

文化講演会開催

本館では「野口英世、高峯讓吉：黎明期のアメリカ医学、科学発展への功績」と題する文化講演会を平成11年5月6日(木)に開催した。学内教職員、学生、県内大学附属図書館関係者約

60名が参加した。

講師である飯沼信子氏は、長らくアメリカに滞在、日本人医学者、科学者のアメリカにおける活動、業績を調査されている。このたびの講演は、講師の来日時に寺田前館長の斡旋により実現し、野口・高峯両博士が100年前のアメリカにおけるいろいろな困難を排しながらも、どのようにしてアメリカの医学、科学界に受入れ、発展に寄与するようになったかを独自の調査に基づいた講演をされ、参加者に深い感銘と刺激を与えた。

Wiley社、Elsevier社の電子ジャーナルサービスが利用できます

Wiley社のInterScience、Elsevier社のScienceDirectの電子ジャーナルサービスで、本学が購読している同社の雑誌をフルテキストで閲覧できるようになりました。図書館ホームページの「電子ジャーナル」に追加しましたので、どうぞご利用ください。

冊子体購読者への無料サービスで、最新号は当館到着より早く見られます。また、同社発行の非購読誌についても、目次とAbstractsが見られますので、大変有用です。

なお、ScienceDirectについては、1999年12月まで、非購読誌の論文をある件数だけ、無料でダウンロードできるサービスがあります。常三島地区は学術情報係(内線6142)、蔵本地区は分館情報調査係(内線6518)までお問い合わせ下さい。

本学教官著作寄贈図書

寄贈者	著者名	書名	寄贈者	著者名	書名
大西克成	大西克成	エッセンシャル微生物学 第4版	松本圭蔵	松本圭蔵	わが定位脳手術
宇都宮英彦	徳島橋梁技術者の会	とくしまの橋四国三郎吉野川の橋	松本圭蔵	松本圭蔵	続・わが定位脳手術
中嶋 信	中嶋信・橋本了一	転換期の地域づくり	島 健二	島 健二	Obesity and NIDDM
橋本了一	中嶋信・橋本了一	転換期の地域づくり	高杉益充	高杉益充	薬剤識別コード事典 平成11年改訂版
			高杉益充	高杉益充	診断・治療の進歩と新しい薬剤 1999-2000年版

人事異動

平10.12.1

東京工業大学附属図書館情報管理課図書情報掛
小松美樹(情報サービス課分館情報調査係)
情報サービス課学術情報係
石川順子(歯学部業務課教材係)
情報サービス課分館情報調査係
横川紀子(情報サービス課学術情報係)

平11.1.31

退職(情報サービス課情報サービス係)
新谷幸弘 中北幸恵

平11.2.1

採用(情報サービス課情報サービス係)
井手啓文 嘉藤哲也
沖津由紀子

平11.2.28

退職(情報サービス課分館情報サービス係)
矢野亜希子 長谷川朋子
篠原亜耶子 百合野美香

平11.3.1

採用(情報サービス課分館情報サービス係)
森親哉 河本政和
井上陽子 谷口章子

平11.4.1

山口大学附属図書館情報管理課長
中野美智子(情報サービス課長)

情報サービス課長

佐藤正弘(豊橋技術科学大学教務部図書課長)
歯学部総務課庶務係長
瀧本正(情報管理課総務係長)
医学部管理課用度第二係用度主任
真木克之(情報管理課総務係総務主任)
医学部医事課(情報処理)
小林保数(情報管理課分館資料情報係)
情報管理課総務係長
佐野章(歯学部総務課用度係長)
情報管理課総務係総務主任
樫本公一(薬学部庶務係庶務主任)
情報管理課分館資料情報係分館資料情報主任
鈴江真次
(医学部医事課情報処理係情報処理主任)

情報サービス課学術情報係学術情報主任
石川順子(情報サービス課学術情報係)
情報管理課図書情報係
梶本真木子(情報サービス課情報サービス係)
情報サービス課情報サービス係
小林多賀子(情報管理課総務係)
退職(情報管理課図書情報係)
重見美緒子
採用(情報管理課総務係)
大塚裕美

会議



●学内

平11.1.25

第4回附属図書館運営委員会
・館長候補者の選考について
・学生用図書費等(文部省・第二次配分)の配分(案)について
・平成10年度予算節約額について

3.3

第5回附属図書館運営委員会
・学術研究委員会委員の選出について

4.22

・附属図書館将来計画について
・平成12年度概算要求について
第1回附属図書館運営委員会
・分館長候補者の選考について
・平成11年度附属図書館事業計画(案)について
①「徳島大学附属図書館貴重資料高精細デジタルアーカイブ取扱要領(案)」について
②「徳島大学附属図書館ボランティア受入実施要項(案)」について
③「徳島大学附属図書館オーディオビジュアル・メディア室利用要領(案)」について

6.7

④「徳島大学附属図書館グループ研究室利用要領(案)」について
第2回附属図書館運営委員会
・分館長候補者の選考について
・平成10年度附属図書館経費決算並びに平成11年度附属図書館運営費所用見込額(案)について
・平成11年度学生用図書購入費等の推薦割当額(案)について
・規則改正について

7.12

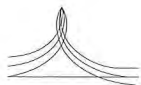
①徳島大学附属図書館運営委員会規則の一部改正
②徳島大学附属図書館蔵本分館運営委員会規則の一部改正
③徳島大学附属図書館文献複写規則の一部改正
第3回附属図書館運営委員会
・規則改正について
①徳島大学附属図書館運営委員会規則の一部改正
②徳島大学附属図書館蔵本分館運営委員会規則の一部改正



●学 外

- 平10.11.11 文部省ヒアリング（於：岡山大学附属図書館）
山本久事務部長
安永勉情報管理課長
中野美智子情報サービス課長
- 11.12 平成10年度中国四国地区国立大学附属図書館事務（部・課）長会議（於：岡山大学附属図書館）
山本久事務部長
安永勉情報管理課長
中野美智子情報サービス課長
- 11.25～26 第11回国立大学図書館協議会シンポジウム（於：広島大学附属図書館）
岡田恵子学術情報係長
- 11.27 日本薬学図書館協議会近畿・中国・四国地区協議会平成10年度第2回研究会（於：神戸市産業振興センター）
折原善彦分館資料情報係長
- 平11.1.19～20 ILLシステム地域講習会担当者連絡会議（於：学術情報センター）
岡田恵子学術情報係長
- 1.21 平成10年度国立大学附属図書館事務部長会議（於：三重大学）
山本久事務部長
- 3.5 平成10年度日本薬学図書館協議会第3回近畿・中国・四国地区協議会運営委員会（於：神戸薬科大学）
折原善彦分館資料情報係長
- 4.27～28 第47回中国四国地区大学図書館協議会（於：ホテルニュータナカ山口市）
岩田紀館長
山本久事務部長
安永勉情報管理課長
- 5.20～21 第70回日本医学図書館協会総会（於：アクロス福岡）
石村和敬分館長（21日のみ）
近藤英子分館情報調査係長
- 5.25 平成11年度国立大学附属図書館事務部長会議（於：東京医科歯科大学）
山本久事務部長
安永勉情報管理課長
- 6.23～24 第46回国立大学図書館協議会総会（於：仙台国際センター）
岩田紀館長
山本久事務部長
佐藤正弘情報サービス課長
岡田恵子学術情報係長（24日のみ）

研 修



- 平10.11.9～12 平成10年度大学図書館職員講習会（文部省、京都大学附属図書館）
横川 紀子
- 11.16～18 平成10年度徳島地区国立学校事務職員基礎研修（鳴門教育大学）
中川志津子
- 11.17～18 平成10年度徳島地区国立学校事務情報化推進研修（徳島大学）
真木 克之
- 11.18～19 平成10年度国立学校等幹部職員研修（部長級）（文部省）
山本 久
- 12.2 徳島県大学図書館協会研修会（平成10年度）（鳴門教育大学）
岡田 恵子 横川 紀子
小西三奈子 鎌田 智美
- 平11.1.11～13 平成10年度徳島地区国立学校ミドルエイジ職員研修（徳島大学）
吉田 敬治

編集後記



本号は徳島大学開学50周年記念ということで、OBの方たちの原稿を載せることができた。ご協力いただいた方々に心から感謝し、今後も後輩たちを暖かい目で見守っていただきたいと思います。

コンピュータ、インターネット、電子ジャーナル、等々めざましいものがある。より便利なほうへ懸命に走っていきだけのようにみえるが、本質をみうしなわないようにしたい。（K.O.）

徳島大学附属図書館報「すだち」No.61
1999年9月10日
編集館報編集委員会
発行 徳島大学附属図書館

<表紙デザイン・レイアウト> 清水 國夫
〒770-8507 徳島市南常三島町2丁目1番地
TEL(088)656-7584
FAX(088)656-9016

